

2023年11月5日 主日礼拝 降誕前 第8主日 聖餐礼拝

説教題：「心の倉(くら)の状態は？」 聖書箇所：ルカ福音書 6章 43 - 49節 (p.114)

説教者：秀島牧師

招詞：讃美歌 93 - 1 - 9 交誦詩編：第 52 編 1 - 11 節 (p.57)

讃美歌：83 (聖なるかな) / 60 (どんなにちいさいことりでも) / 197 (ああ主のひとみ) /
78 (わが主よ、ここに集い) / 27

「今週の聖句」 [善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた
倉から悪いものを出す。人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。]

(ルカ伝 6:45)

「牧師室の窓」 「半年の降臨節は過ぎ去りて主の降誕を待つ時来たる」

「富士山の白き冠雪遠く見ゆ秋深まれる空の広さよ」

(1)皆様おはようございます。先程、司式者によって朗読していただきました本日の聖書箇所は、ルカ福音書 7 章 17 節から始まったイエス・キリストの説教の締め括りの部分に当たります。7 章 17 節には次の様に書かれています。〔(ルカ伝 7:17)イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子とおびたしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、/(7:18)イエスの教えを聞くため、また病気をいやしていただくために来ていた。穢れた靈に悩まされていた人々もいやしていただいていた。〕そして、20 節からは「貧しい人々は幸いである、神の国はあなたがたのものである」、27 節には「敵を愛し、あなたがたを憎むものに親切にきなさい」と続き、31 節には黄金律 (ゴールデン・ルール) と言われている「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」とイエス様の教えが記されています。17 節に書かれているように「山から下りて、平らな所にお立ちになった」とすることから、「**平地 (平らな所) の説教**」と言われています。マタイによる福音書 5 章から始まる所謂「山上の説教」に相当する箇所です。但し、マタイ伝の「山上の説教」は内容が豊富であり、多岐にわたっています。一方、ルカ伝では、そのマタイ伝の内容が、ルカ伝の幾つかの箇所に分散されて書かれています。皆様がお持ちの新共同訳聖書には夫々の小見出しの下に括弧書きにて、対応する別の聖書の箇所が記載されていますので、確認し易く、かつ、聖書を学び易くなっています。積極的に活用することができます。以前の口語訳聖書や文語訳聖書にはそのような表示はありませんでした。聖書を只管読み込んで、自分の血となり肉となる程に読み込むこととなります。先人たちのご苦勞は大変であったと私も実体験してきました。

(2)扱って、今日の聖書箇所はイエス様が平地での説教の終わりとして 2 つの例え話をされています。その初めが良い木を見分ける方法について語られています。2 つ目は家の土台についてです。では、良い木を見分ける方法の箇所を見てみましょう。43 節 44 節です。〔(6:43)「悪い実を結ぶ良

い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。/(6:44)木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。茨からいちじくは採れないし、野ばらからぶどうは集められない。] ここでは、良い木と悪い木を、良い実がなることと悪い実がなることとによって対比させています。その良い実とはいちじくでありぶどうであります。イエス様がお育ちになられたガリラヤ地方は気候が温暖な土地であり、小麦・大麦・ぶどう・いちじくが育つ場所です。旧約聖書の申命記8章には、皆様がよくご存じの聖句が書かれています。それは [(8:3)…人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きる…] と書かれているそのすぐ後に [(8:7)あなたの神、主はあなたを良い土地に導き入れようとしておられる。それは、平野にも山にも川が流れ、泉が湧き、地下水が溢れる土地、(8:8)小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろが実る土地、オリーブの木と蜜のある土地である。] と書かれています。また、サムエル記上25章(18節)には、ダビデに対するナバルの愚かな振る舞いを赦してもらうためにナバルの賢い妻アビガイルはパンやぶどう酒に加えて干しぶどうや干しいちじくを数頭のろばに積んでダビデのもとに持ってきました。12月に行なう交わり礼拝の聖書箇所サムエル記上30章(12節)にもいちじくとぶどうのことがワンセットで書かれています。詩編(78:47、105:33)にも、イザヤ書(36:16)にもいちじくとぶどうのことがワンセットで書かれています。つまり、いちじくとぶどうはユダヤの人々の日常生活にとっては身近な食べ物であり、イエス様のこの譬え話を成程と容易に理解することが出来たことでしょう。…少し脱線しますが、先程の申命記8章には、荒れ野での40年の後に豊かな土地に入るとの主なる神からの言葉の中で、「(8:9)不自由なくパンを食べることができ、何一つかけることの無い土地…」であることが記されています。皆様のご経験があるかもしれませんが、食べるものがないことの恐怖を、貧困で食べるものを買うことの出来ない恐怖は言葉では言い表せません。学校で物事を学ぶことの根本は貧困からの脱却・脱出であると私は個人的に体験してきました。次の世代やその次の世代には貧困とならないために良く学び良く遊んで欲しいと思っています。加えて、現在のパレスチナでの戦争によって、多くの命が奪われ、子供たちも大人も食べるものがなく、絶望的な貧困が待っています。どんなに複雑な政治状況であったとしても、日本基督教団や東京教区も北支区も、明確な声を上げなくてはなりません。アメリカのプリンケン国務長官も日本の上川外務大臣も尚一層の知恵と奮闘をお願いしたいと私は応援しています。

(3)「良い実、悪い実」の譬え話は次の45節を導くための入り口です。その45節を見てみましょう。[(6:45)善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。] イエス様は人々に分かり易く理解してもらうために、人間には「心の倉」があると譬えているのです。そもそも「倉」と言うのは、何かを蓄えて置く場所でありますので、蓄える物によって「倉」の価値が定まってきます。「良いものを入れ」れば、その倉は「良いものを出」すことができます。そうではなくて、「悪いものを入れ」れば、その倉は「悪いものを出す」ことになるでしょう。つまり、

「良いものを出」すのか、「悪いものを出す」のかは、その人が「心の倉」に「良いものを入れ」るのか、或いは、「悪いものを入れ」るのかと言う価値判断によります。今、私は「価値判断」の「価値」と言いましたが、私たちにはこの「価値」を判断することが難しいのです。分かり易く言いますと、「価値」ではなくて「値段」であれば、私たちには分かり易いですね。では、「値段」はどの様に決まるのでしょうか。考え方は2つありまして、1つは需要と供給によって決まります。例えば、卵の値段やガソリンの値段はその典型的な例です。もう1つは労働時間や労働の質によって決まります。例えば、お医者さんの診療報酬や弁護士費用です。併し、人間の社会には、「値段」とは異なる「価値」と言う尺度があります。子供たちや若者たちが学校で学ぶのは生きるために「値段」を学び、平和のために「価値」を学んでほしいと思っています。学ぶためには学校の授業料や本代や交通費などなどが必要です。また、学校に行かないで働けば得られる賃金を（これを「機会費用(opportunity cost)」と言います）を含めて、それらの費用を遥かに上回る「価値」を学んでほしいと私は思っています。…教会の活動も同じです。現代の教会が求められているのは、聖書の御言葉の「価値」を宣べ伝えることにあるのではないのでしょうか。キリスト教の「価値」とは何かを、私たちは分析し、理解し、人々が共感できるように工夫をしなければなりません。その為には、私たちの「心の倉」を常に点検することが大切です。「良いもの」とは何であるのかを判断する判断力を養い身に付けることが必要です。そのためには、神との対話、つまり、祈ることが不可欠であります。祈るとは神の声を聞いて、私たちの「心の倉」に入れるに相応しいものとは何かを試行錯誤することでもあります。…序で乍ら、先程申し上げました申命記の28章には次の様に書かれています。〔(28:8) 主は、あなたのために、あなたの穀倉(こくぐら)に対しても、あなたの手の働きすべてに対しても祝福を定められ、あなたの神、主が与えられる土地であなたを祝福される。〕 ここには「あなたの手の働きすべてに対しても祝福を定められ」ると書かれています。神が私たちが積極的に見守っておられることが明記されているのです。

(4)次に46節～49節を見てみましょう。まずは46～47節です。〔(6:46)「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。/(6:47)わたしのもとに来て、わたしの言葉を聞き、それを行う人が皆、どんな人に似ているかを示そう。〕この46節47節を理解するうえで参考となる箇所があります。それは今日の聖書箇所から5ページ進んだ(119ページの)ルカ伝8章21節を見てみましょう。小見出しで「イエスの母、兄弟」と書かれている段落の終わり、21節です。〔(8:21)するとイエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行う人たちのことである」とお答えになった。〕ここに書かれている「神の言葉を聞いて行う人たち」とはどのような人たちのことでしょうか。それは神の言葉を聞いたならば、考えて、考えて、自分のできる範囲で行なう人のことです。出来る範囲の大小が、大きい小さいが問われているのではなくありません。ルカ福音書21章1節～4節に「やもめの献金」と言う箇所がありま

す。賽銭箱に僅かな金額であるレプトン銅貨2枚（文語訳・口語訳聖書の言葉で言えば「レプタ二つ（ふたつ）」）を入れたことにイエス様は「誰よりもたくさん入れた。この人は、乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである。」と言っています。「祈りの価値」が示されていると理解することができます。私は信徒時代に長く働いてきましたので、お金の値段もお金の価値も体験してきました。外国為替とは（米ドルと円、ユーロと円、英ポンドと円など）お金の値段であり、一国の通貨の価値です。時価評価とは現在時点での価値であります。ある事業会社の立て直しをした時には、従業員と共に働く人一人ひとりの価値を向上することにしました。職業上の自分の価値を高め、製品の品質や技術力・サービス力を相手方から評価していただき、会社の利益を得て初めて価値が実現するプロセスを共有することを目指しました。また、ある良質な会社では株式を上場させるために、その会社の価値が分かるように書面で表現しました。どのような場面であっても、聖書のこの「レプタ2つ」の記事は私の職業人としての胸に付けたバッチであり心の支えでありました。皆様にとっても「レプタ2つ」を心の中に持つておられることは価値判断の物差しになるものと思います。

(5)主の言葉を聞いて行なう人のことを、48節では〔(6:48)それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。〕と書かれています。ここにはごく当然のことが書かれているのです。問題はそのことに気が付くか、気が付かないかと言うことに他なりません。加えて言えば、「心の倉」を整えておけば容易に判断をすることが出来るのです。物事を客観的に判断する力を得ることが出来るのです。時々、自分自身の「心の倉」を掃除してみることも大切です。もうすぐに、12月を迎えます。心の中でクリスマスを迎える準備として、また、年末前の大掃除への準備として、「心の倉」の状態を点検・確認してみましょう。私たちの「心の倉」の価値について考えてみる良い機会であると思います。

・・・お祈りします。